



ベルデ ネット

発行 2022年1月18日 (第11号)

事務局／堺市立重症心身障害者(児)支援センター内 **ベルデ地域支援センター**
〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1 堺市立健康福祉プラザ2階
電話 072-275-8510 FAX 072-243-5900



ごあいさつ

堺市立重症心身障害者(児)支援センター
ベルデさかい センター長 児玉 和夫

令和3年度の障害福祉サービス等報酬改定についてと 新型コロナのワクチン接種について

令和3年度の報酬改定では今まで以上に地域生活支援が強調されていると思われました。

改定内容紹介のトップに「障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援、質の高い相談支援を提供するための報酬体系の見直し等」があげられています。

- (1) グループホームにおける重度化・高齢化に対応するための加算の見直し
- (2) 自立生活援助の整備を促進するための報酬・人員基準等の見直し
- (3) 地域生活支援拠点の整備の促進・機能の充実を図るための加算の創設
- (4) 生活介護等における重度障害者への支援の評価の見直し
- (5) 質の高い相談支援を提供するための報酬体系の見直し

と続きます。ICTの活用、災害への地域単位の対応も入ります。重度障害や医療的ケア児者に重点を置き、さらに強度行動障害への支援も含めた内容ですが、堺市で多様な事業を営んでいる方々にも意義がある改定ではないでしょうか。その背景には堺市での先進的な活動があったと思います。2年前の秋に厚生労働省の担当の方々が堺市を訪れ、そのいくつかを見たり、話を聞いていかれました。重度障害や医療的ケアを必要とされる方への支援という点で全国の先駆的な取り組みをしている、ということ注目されたようです。

さらに今は障害者総合支援法の見直しに入り、厚生労働省では多くの団体からヒアリングを行なっています。新型コロナへの対応でもそうですが、ますます増えていく重度障害や医療的ケア児者への効果的支援を行うには、今の制度の仕組みの作り替え、より融通性があるものとしていく必要があるでしょう。堺市内外で活躍されている皆さんと今後の発展につながるような提案が生まれるよう是非また会場でお会いし議論したいものです。

最後に気になることが一つあります。障害者への新型コロナのワクチン接種がいずれ始まりますが、皆様に関係がある障害者の方々への接種はどうなっているのでしょうか。その点での情報交換は重要です。このネットが役立つことを望みます。

ごあいさつ

ベルデ地域支援センター

堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかいの事業の5本柱(入所・短期入所・通所・外来診療・地域支援)のひとつ、ベルデ地域支援センターは昨年9月から地域・通所支援部の中の組織に改編され、事業開始から7年目に入りました。

さて、世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けている状況が続いています。地域で様々な変化が起こっているのに、その地域へ出向いての活動がほとんど停止していることに加えて、堺ミーティングのような講演会の規模の縮小と延期や、障害者フェスタのイベントであった電動車いすフェスタも中止せざるを得ない状況でした。そして、今年度も先行きは分かりません。

人は「動く」「移動する」ということを前提に文化も文明も進化・発展させてきました。今、「人の動きを止める」ということは、これからの人の生活にどんな影響をもたらすのでしょうか？また、オンラインでの研修などは活発に行われて、その便利さが浸透していく反面、人と人とのつながりが薄くなっていくことに関しても、違和感と不安を感じます。改めて対面でのやり取りの効果や重要性に気づかされます。

継続してお伺いしている事業所では、利用者さんの機能的な活動レベルの低下に加えて、外出がままならないストレス、そして家庭においても精神的に不安定になられることへの保護者や支援者の方々の不安や焦り、また保護者の方々にもいわゆる「フレイル(虚弱・加齢により心身が老い衰えた状態)」の状況が明らかに生じていると肌で感じます。地域支援センターの本来の役割である、地域に出向いて現場で様々な問題に対する工夫や解決の糸口を考えて提供できる日が来ることを願うばかりです。

障害を有する人たちの生活を支援するために、今年度も、可能な限り堺ミーティングをはじめとして各種の講習会やイベント、情報発信を計画していきます。

ベルデネット第10号をお届けします。

ベルデ地域支援センター
通所支援部・地域支援部長 小澤 明人



■地域支援センターからのご案内・お知らせ■

講習会や勉強会などの詳細は、ベルデさかいホームページに随時掲載します

第23回堺ミーティングのお知らせ



日時:2021年7月28日(水)19:00~20:30

会場:堺市立健康福祉プラザ 3階 大研修室

講師:鎌田 諭氏(日本相続知財センターなにわ支部・京都支部理事 税理士・司法書士)

今回も主に堺市内の生活介護事業所や作業所、支援学校の先生、訪問看護ステーションの方々など多職種の方々に参加をいただきました。

普段、あまり接する機会の少ない成年後見、遺言や不動産のことなど、具体事例を通して、分かりやすく学べる機会となりました。また障害者に関わる方にとって、お金にまつわる考え方やこれから必要になるであろう手続きなど、今回参加された皆さんにとって、非常に有意義な講演会だったと思います。

参加者の感想…(抜粋)

- 遺言、成年後見の報酬について、完全に盲点でした。本人が長い目で見て不利益を受けないよう支援者として、日々、知識の積み上げが必要と感じさせられました。ありがとうございました。
- 後見人という言葉は良く聞きますが、実際の法律に基づいた後見人が行う範囲は分かりにくかったですが、理解することができました。
- これまで様々な成年後見に関する研修を受けましたが、本日のがよりリアルで分かりやすい研修でした。
- 知らなかったことを聞いて、すごく参考になった。税金の話を知ることができて本当に良かった。専門的な話を分かりやすく聞くことができて良かった。

などなど、大変多くのご感想、ご意見をいただきました。ありがとうございます。



(報告) ベルデさかい 地域支援センター
 支援部長 理学療法士 小澤 明人
 事務局長 森 繁樹
 事務次長 瑞泉 祐樹
 相談員 小林 太一



第24回堺ミーティングの報告

日時:2021年12月15日(水)19:00~20:30
会場:堺市立健康福祉プラザ 3階 大研修室
講師:山下 美由紀氏(一般社団法人輝39代表理事)
:中田 義弘 氏(一般社団法人輝39理事)
テーマ:「看護付きグループホーム オリーブからの提案」



今回も主に堺市内の生活介護事業所や作業所、支援学校の先生方など多職種の方々に参加をいただきました。

看護付きグループホーム設立のきっかけから、その運営に至るまでを対話形式で分かりやすく講演していただきました。

従来では施設入所での生活が当たり前とされていた、重症心身障害児者、医療的ケアのある方々が「住み慣れた地域での生活を継続する意義」や「地域での生活の実現に必要な関係機関の密な連携」などを考えることができる良い機会となりました。

そして、今後の福祉医療サービスの発展のためには「福祉と医療の連携」がとても重要となってくることを改めて気付くことができました。

これから事業を始めようと考えている方々にとっても、大変参考になる内容で、今回の堺ミーティングに参加したことで、事業所間の横の繋がりを作る機会をいただきました。

参加者の感想…(抜粋)

- ・ 現在、呼吸器の方の24H体制の支援に介護ヘルパーの一人として関わっていますので、グループホームに入ることで暮らしがどう変わるのかとても興味深いです。
- ・ 看護付きグループホームの必要性を強く感じました。全ての人に、安心、安全に暮らせる場を！！また、選べる自由を！！本当にそう思える内容でした。同様のグループホームが増えてほしいです。

などなど、大変多くのご感想、ご意見をいただきました。ありがとうございます。

引き続き今回のような情報交換会や研修を開催できるよう準備を進めていきたいと思っております。

なお、今回の研修の内容は、ホームページ上でも公開させていただいています。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。



(報告) ベルデさかい 地域支援センター
支援部長 理学療法士 小澤 明人
事務局長 森 繁樹
事務次長 瑞泉 祐樹
相談員 小林 太一

おらせ

第25回堺ミーティングの予定

テーマ:「親あるうち」(仮)

※ 令和4年春頃の開催調整の予定をしています

今後、「意思決定支援」、「アドバンスド・ケア・プランニング」などをキーワードとした研修を企画していく予定です。お楽しみに！！



婦人科からの耳より情報

第五話「障害者の健康診断」

コロナ下で多くの方が外出を自粛するなか、健康診断も不要不急の外出と考えられ、受診する方が減っています。この結果、病気の早期発見が遅れ、この数年は、新型コロナ感染と関係ない病気によって命を落とす人が増えると危惧されます。

障がいを持つ方は、障がいの特性に伴う病気とともに、生活習慣病やメタボリックシンドロームなどの危険も高いと考えられます。しかしながら、障がいを持つ方は、それ以外の人と比べて、市町村の健康診断の受診率は低く、また、作業所や生活介護施設は、会社ほど職域健診の義務化が徹底しておらず、多くの施設で健康診断を実施していません。また、平成4年に国と地方自治体が半分ずつ予算を出し合い、身体障害者健康診査事業が開始されましたが、事業が地方自治体の事業に降ろされた結果、ほとんどの自治体が事業から撤退しています。

では、なぜ、障がいを持つ方は検診率が低いのでしょうか？健診がなぜ必要かという理解が困難、健診の情報が入ってきずらい、行きたいと思っても誰かに頼まなくてはいけない、病院への移動手段を探すのが大変、病院で待つのが大変、診察台への移動が大変、検査が怖い、検査する側の理解が不十分、金銭的な負担など複合的な原因が考えられます。

これらのハードルを下げるために、周囲が積極的に、働きかける必要があります。

例えば、毎年必ず受診するようにスケジュールを立てる、生活または、仕事をしている場所での健診を調整する、慣れている場所で健診を行えるようにする、障害又は本人になれている医療スタッフが行う、無料にて検診を行うなどが考えられます。

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院では1992年から「障害のある方の人間ドック」が運用されており、1992～2006年末までの106人の受診者のうち、104人に何らかの異常値を認めたとされています。うち、64人は肥満、高脂血症、高血圧、糖尿病、高尿酸血症などの生活習慣病があったそうです。

障がいを持つという理由で、健康診断を受けられないという環境を改善するために、当事者、家族、支援者、行政、医療者が一体となって取り組んでいければと思っています。

はしもとクリニック 院長
前 ベルデさかい 診療部長 橋本 洋之 医師



ベルデ薬局 知っておきたいお薬のお話

「便秘薬について」

便秘とは、排便の仕組みに障害が起こり、排便の回数や量が減ることによりお腹が張ったり痛みが出るなど不快な症状が現れている状態をさします。便秘薬にも様々な作用のものがあり、原因によって選択していくことが必要です。

塩類下剤(酸化マグネシウムなど)

腸内に水分を引き寄せて柔らかくする。習慣性が少なく使いやすいが、心・腎疾患のある方は注意が必要。

腸刺激性下剤(センナ、ダイオウ、ラキソベロンなど)

腸を動かす。連用すると耐性が生じて効きにくくなることもあるので連用は避ける。

浣腸薬(グリセリン浣腸など)

直腸を局所的に刺激して排便反射を促す。連用は便意のリズムを乱すため要注意。

また近年、水分を引き寄せる「モビコール」や腸の水分分泌を促す「アミティーザ」、大腸の胆汁酸量を増やす「グーフイス」など新しい薬も発売され、選択肢が広がりました。

ベルデさかい 薬剤師 河村 久美子



暮らしに役立つ福祉用語のお話

No.5 「療育手帳」

第5回目の福祉用語のお話は、療育手帳についてです。

療育手帳についてというと、みなさんにとっては、何をいまさらと思っていることかと思えます。

療育手帳とは、知的障害のある方に交付される手帳です。知的障害児者へ一貫した指導・相談、各種の援助措置を受けやすくすることが、療育手帳の目的です。

今の空色の療育手帳は、堺市が政令指定都市になった平成18年から堺市が交付しています。以前は小豆色の大阪府が発行していた療育手帳でした。判定機関も変わったのを覚えている方もいらっしゃるでしょうか。では、なぜ変わったのでしょうか。

療育手帳は都道府県や政令指定都市等の知的障害者更生相談所の判定によって発行されます。例えば、大阪市から堺市に転入してくれば、本来は新たに堺市で判定を受ける必要があります。当然ですが、堺市から他府県や他市町村に転出した場合にも同じことです。皆さんがよく知っている等級は、A、B1、B2ですよね。東京では、1度、2度、3度、4度で「愛の手帳」と名前も違います。判定機関によって判定基準も違うので場合によっては非該当になってしまうこともあり得ます。当然逆の場合もあります。

なぜ、こういうことになるのかというと、これは療育手帳が法律で決められた制度ではなく、各都道府県等が定める制度で発行しているからです。ちなみに、身体障害者手帳は、法律で決められた制度なので、全国どこへ引越しても、住所変更の手続きだけで継続して使用できます。

療育手帳は、知的機能の障害が発達期(概ね18歳まで)にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にある人に、継続した支援を受けるために交付されるものです。必要ないと思えば返還は可能ですし、知的障害があっても、交付を受けないという選択肢もあります。

更新時期等についても、地域によってそれぞれです。18歳以上で、一度判定すれば更新の必要がないというところもあります。数年ごとに更新をしているところもあります。

申請は18歳を過ぎてても可能です。ただし、交付の条件となる「知的機能の障害が概ね18才までに生じること」が要件となっていることから、18歳前の知的な遅れの情報となる資料の提出が必要になります。ただし、知的な遅れが生じた原因については問われていません。

18歳以上になってから申請しようとする方は、まずは区役所の地域福祉課に相談してください。

ベルデさかい 事務局長 森 繁樹



■地域支援センター 事業実績と予告■



堺ミーティング



	日時	テーマ
第1回	平成27年 7月20日	施設紹介:「ベルデさかいの役割とこれから」 児玉センター長、ベルデ各部署
第2回	9月11日	講義(岸本PT):いのちの入れ物「からだ」への支援
第3回	11月27日	講義(松本OT):豊かな暮らしの活動支援
第4回	平成28年 1月8日	講義(松浦ST):楽しい食事時間の支援
第5回	3月11日	講義(石崎Ns):いのちを紡ぐ医療的ケアの支援
第6回	5月13日	施設・事業紹介 大阪南リハビリ訪問看護ステーション、障友会グループホーム「あいあい」
第7回	7月8日	施設・事業紹介 アシストデイ・アシストナイト(ナイトケア)、えーゆーハウス
第8回	9月9日	施設・事業紹介 ピュアあすなろ、大阪府立堺支援学校
第9回	11月11日	施設・事業紹介 堺市基幹相談支援センター、堺市障害者更生相談所
第10回	平成29年 1月13日	講演 橋本 洋之 医師 (堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかい 診療部長) 「障害女性のライフステージと健康」
第11回	3月10日	施設・事業紹介 じょぶライフだいせん、平成29年度の堺ミーティング計画報告
第12回	5月12日	講演:位田 忍 医師 (大阪母子医療センター副院長・患者支援センター長) 「在宅医療の地域ケアシステム構築での3次病院及び専門医療の役割」
第13回	9月27日	講演:南條 浩輝 医師 (かがやきクリニック院長) 「ちょっとだけがんばればできる小児在宅医療」
第14回	11月17日	講演:長井 美樹 医師 (堺市総合医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長) 「重症心身障害児者や長期臥床患者に適した新たな誤嚥防止術のご紹介」 紹介:堺市総合医療センター (医療連携室 柳川 富久美 看護師長)「医療・福祉・介護連携」
第15回	平成30年 1月12日	講演:藤井 健一 医師 (耳原総合病院小児科) 「重症心身障害児者とその家族に教えられた事 これまでの経験とこれからの展望」
第16回	3月9日	講演:伊藤 隆夫 PT (全国訪問リハビリテーション協会相談役・前会長) 「地域包括ケアと在宅リハビリテーション—これからの地域に求められるリハ職の役割を考える—」
第17回	9月14日	テーマ:「自立支援について考える-重心自立生活者当事者報告会-」 ※知的に高い重度障害者の自立生活実現への当事者報告会 当事者2名参加
第18回	平成31年 3月1日	テーマ:「自立支援について考える②」 堺区障害者基幹相談支援センター 菊池様からの事例紹介とディスカッション
第19回	2019年6月20日	講演:竹本 潔 医師 (大阪発達総合療育センター 副院長 小児科) 「大規模災害時の医療的ケアが必要な方々への対応と対策」
第20回	10月24日	講演:森 繁樹 氏 (ベルデさかい 事務次長) 「個別支援計画と福祉制度入門」
第21回	2020年8月28日	情報交換会: 新型コロナウイルスによる様々な影響とこれからの対策について ①新型コロナウイルス感染症対策 ②事業所、施設の運営や管理 ③利用者、保護者の心身の健康や生活
第22回	11月4日	講演:橋本 洋之 医師(はしもとクリニック 院長、前 ベルデさかい 診療部長) 「障害者の答えのない選択 あなたならどうする？」
第23回	2021年7月28日	講演:鎌田 諭氏 (日本相続知財センターなにわ支部・京都支部 理事) 「専門用語を使わない障害のある子の親なき後のお金のお話」
第24回	12月15日	講演:山下美由紀氏(一般社団法人輝39代表理事)、中田義弘氏(一般社団法人輝39理事) 「看護付きグループホーム オリーブからの提案」

「障害者週間」フェスティバル



第1回	平成28年12月3日	第2回	平成30年3月11日	第3回	平成30年12月1日
第4回	2019年11月30日	第5回	令和2年11月28日(中止)	第6回	令和3年11月予定



器具作成講習会(ベルデ製作所)

今までに作成した器具の作り方などは、ベルデさかいのホームページに掲載していますので、ご覧ください

第1回	平成28年10月16日	第2回	平成30年1月28日	第3回	平成31年3月16日
第4回	検討中				

介護講習会(ゆびきたす倶楽部)

第1回	平成28年6月19日	第2回	平成29年8月20日	第3回	平成30年6月10日
第4回	検討中				

症例検討会(くおりあ倶楽部)

新型コロナウイルス感染症の影響で延期しています。再開が決まり次第、ホームページやメールなどでご案内します。

健康体操教室

新型コロナウイルス感染症の影響で延期しています。再開が決まり次第、ご案内します。



その他の講習会

平成29年 10月22日	大阪府重症心身障がい児者地域ケアシステム整備事業 障がい福祉サービス等体験会・在宅重症心身障がい児者支援者育成研修
--------------	--

ベルデ地域支援センターの派遣事業について



- 地域の生活介護事業所での医療や介護、お薬、リハビリなどに関するご相談や指導
- 職員研修などの講義や実技指導
- 職員の腰痛予防などの体操指導
- 婦人科に関すること
- その他

電話・FAX、ホームページ、メールなどで、どうぞお気軽にご連絡・ご相談ください。
ご依頼・ご相談をいただきましたら、日程のご相談をしてなるべく早期に対応します。

ベルデさかいの
ホームページは
こちら



お問い合わせ・ご連絡先

堺市立重症心身障害者(児)支援センター内
ベルデ地域支援センター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1
堺市立健康福祉プラザ2階
電話 072-275-8510 FAX 072-243-5900

担当者 今ヶ迫 昇平(いまがさこ しょうへい)
小澤 明人(おざわ あきと)

メール: verdesakai.chiikishien@misasakai.or.jp

